

## ■■ 平成30年9月29日（土） ■■

### ～常に地震を覚悟し、備えを怠りなく！—第1・2分区合同防災訓練～

9月29日日の丸会館で、「栄町の地震災害に備える」と題して、栄東連合町内会第1分区、第2分区合同の防災訓練・研修会が開催されました。9月6日に発生した北海道胆振東部地震では震度6弱の怖さを体験したばかりで、参加者約80名の皆さんは真剣に聞き入っていました。

講師は、栄東連合町内会の総務部長の菊地裕嗣さん。元札幌市消防局警防部長で防災士の資格を持たれており、被災地支援の経験も踏まえながら非常に実践的な講義をしていただきました。石狩平野の誕生から地震の可能性をひも解き、全国の大震災から得た教訓や災害にどう備え、発生時にどう対応するなどのほか、避難場所や被災者支援制度に至るまで盛りだくさんの内容でした。

災害（地震）対策の第1順位は「生き残ること」で、自宅の耐震化や食器棚、タンスの固定などが大切です。第2順位は「生きながらえること」で、食料やカセットボンベ、飲料水や簡易トイレなどの備蓄の必要性を訴えられていました。

地震の予知は、まだ精度は高くありませんが、いつでもどこでも震度6クラスの地震がくることを覚悟し、“備えること”の必要性を再確認させられたお話でした。



## ■■ 平成30年10月2日（火） ■■

### ～町を良くする仕組み。赤い羽根共同募金の街頭募金がスタート～

今年も赤い羽根の共同募金の街頭募金が始まりました（栄東地区では10月1日～6日に実施）。台風の影響で1日、6日は中止になりましたが、栄東地区福祉のまち推進センター、大栄寿会や日の丸クラブなどの老人クラブなど10団体約70名の参加により実施し、10月2日は、イオン栄町店やホクレンショップ49条店の前で募金への協力を呼びかけました。

共同募金は、都道府県ごとに募金の目標額や受配者の範囲及び配分方法を定めて計画的に募金活動が実施され、道内で集められた募金は、基本的に道内で使われます。最近は、災害

発生時にも生かされ、このたび発生した北海道胆振東部地震の支援にも活用されます。共同募金は、募金をしていただいた人々の優しい気持ちを届け、町を良くする仕組みです。皆様のご協力をよろしくお願いたします。



## ■■ 平成30年10月5日（金） ■■

### ～地区内の5小学校に心のこもった雑巾を寄贈—女性部～

栄東連合町内会女性部は、10月5日、地区内の栄緑、栄東、栄、栄町、栄南の各小学校を訪問して、それぞれ約200枚ずつの雑巾を贈呈しました。これは、東区連合町内会女性部連絡会の事業として毎年実施しているものです。



栄東地区では、女性部が38町内会の女性部や老人クラブなどに呼び掛け、9月末まで約1,100枚の雑巾が寄せられていました。

集まった雑巾は、女性部のみなさんが丁寧に仕分け。永渕会長とともに届けたものですが、手づくりで心のこもったたくさんの雑巾を受け取った学校は大喜び。「いつも大変助かっています。大切に使用させていただきます」と感謝の言葉が伝えられました。

## ■■ 平成30年10月11日（木） ■■

### ～たまねぎに事故死ゼロの願いをこめて—交通安全たまねぎキャンペーン～

10月11日、栄東地区の秋の風物詩に定着した栄東連合町内会・栄東地区交通安全運動推進委員会（いずれも永渕宏会長）主催の「交通安全たまねぎキャンペーン」が地下鉄栄町駅交差点で実施されました。

袋詰めしたたまねぎに「交通事故死ゼロ」の願いを込めたメッセージを添えて、信号待ちで停車したドライバーや道行く歩行者の皆さんに配布する東区ならではの街頭啓発で今年が34回目になります。

この日、同町内会顧問の氏家謹一さんが丹精を込めて栽培したたまねぎの提供を受けて、同町内会役員がメッセージカードとともに袋詰めを行い、午後2時から交通安全を旗波でアピールしながら配布しました。参加者は、町内会、交通安全指導員、交通安全母の会会員などの約100名と地元の日の丸保育園年長組の児童25名。小さな子どもたちもかわいらしい声で一生懸命交通安全を呼びかけていました。



用意したたまねぎ630袋は30分余りでなくなりましたが、午後3時から、引き続き日の丸会館にて交通安全教室を開催しました。

内容は、東警察署の丹羽交通第一課長と東区交通安全運動推進委員会の小林事務局長の講話でしたが、参加者は、ちょっとした不注意で起きる交通事故の怖さを再認識し、栄東地区の交通事故死ゼロを永続させようと思いを新たにしました。

